

2010年度(2011年3月期) 決算説明会



2011年5月16日

大正製薬株式会社

代表取締役会長兼社長 上原 明

東日本大震災について



● 被害の状況

- 仙台支店: 建物の一部破損、すでに復旧
- 仙台物流センター: 建物・設備が一部損壊、4月中旬復旧
- 大宮工場: 建物一部破損、数日で復旧
- 大宮物流センター: 製品の一部破損、直後の週末で復旧
- 羽生工場: 倉庫の一部が損傷、4月初めに復旧

● 前期業績への影響

- 売上高は、医療用医薬品に一部影響があり、計画を上回る一因となった
- 2010年度決算に特別損失11億円を計上

東日本大震災について



● 今期業績への影響

- 売上への影響：直接的な影響は限定的
（被災地域の前年実績などの状況から推計）
- 現時点で、生産、資材調達等に大きな影響はない：
現在、製品供給は平常時の水準
- 夏の節電への対策を検討中だが、
特に大きな問題はないと考えている
- 現在読み切れていない影響が出てくる場合は、
わかり次第、予想に反映させる

2010年度通期決算：概要



2010年度：連結損益の概要

(億円)

	2009年度	2010年度	前期比増減	
売上高	2,584	2,686	+102	+4%
セルフメディケーション事業	1,589	1,672	+83	+5%
医薬事業	996	1,014	+18	+2%
営業利益	347	441	+94	+27%
経常利益	367	541	+174	+47%
当期純利益	195	349	+154	+79%
EPS(円)	67.98	124.90	+56.92	+84%

注：金額は億円未満四捨五入



2010年度通期の概況(1)

- セルフメディケーション事業(国内)
 - ほぼ計画どおりの業績
3大ブランドがすべて増収となった
 - リポビタンシリーズ: その他100mLが伸長
 - パブロンシリーズ: 総合感冒薬が伸長
 - リアアップシリーズ: リアアップX5が引き続き好調
 - リビタシリーズ、通販など、H&B関連も順調

<ご参考:市場の状況>

- OTC医薬品市場
2010年度通期:前期比▲3%

(SDIデータをもとに当社推計, 売価額ベース)

2010年度主要ブランド売上高



(億円)

	2010年度 通期	前期比 増減	予想比* 増減
リポビタンシリーズ	711	+3	▲3
パブロンシリーズ	257	+8	+4
リアップシリーズ	149	+22	+1
ナロンシリーズ	46	+2	▲2
胃腸薬シリーズ	43	0	0
コーラックシリーズ	39	0	0
リビタシリーズ	36	+5	▲1

注:金額は億円未満四捨五入

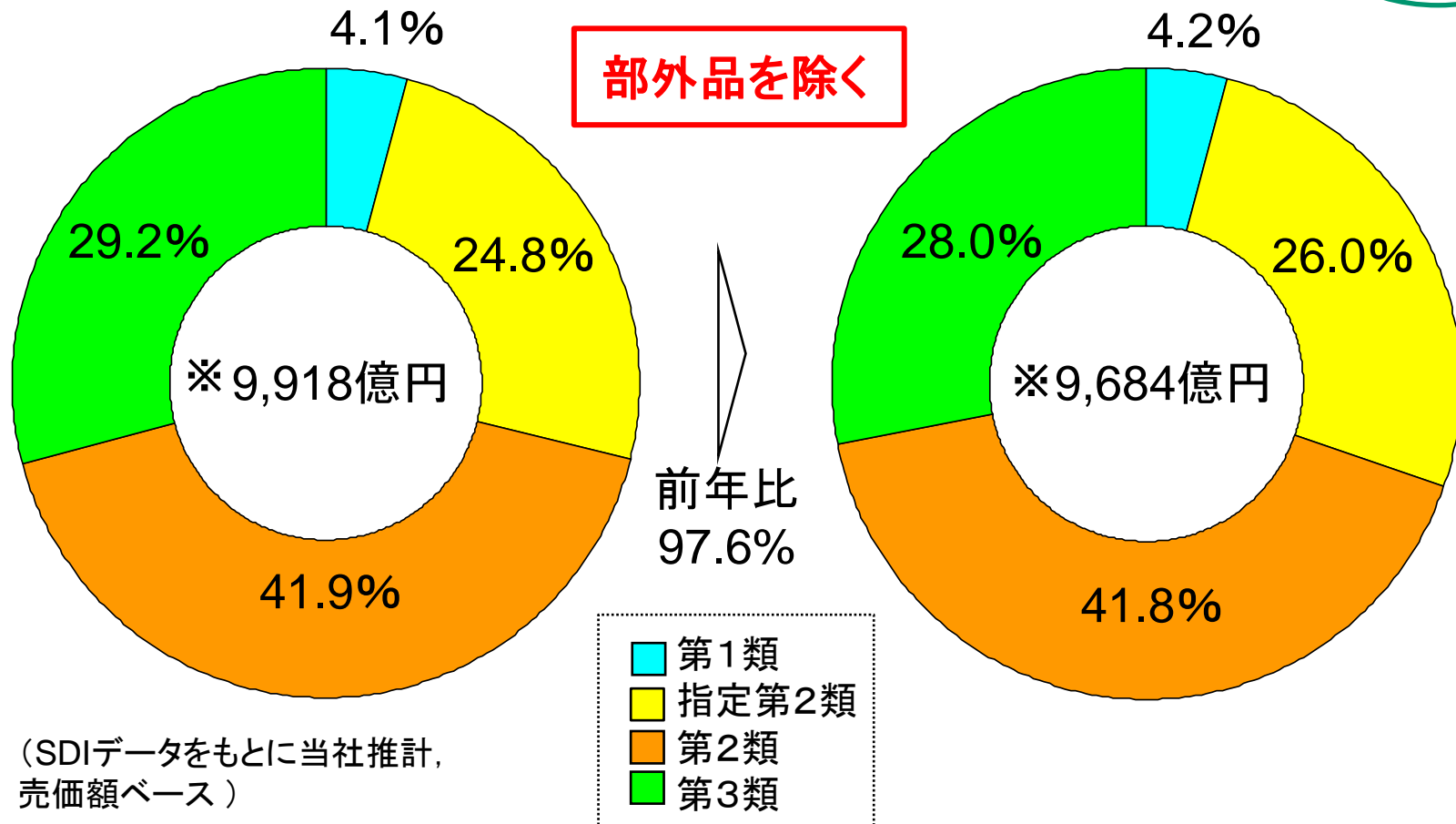
*2011年1月31日時点予想との対比



OTC医薬品分類別構成比

国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く
(2009年度通期) (2010年度通期)

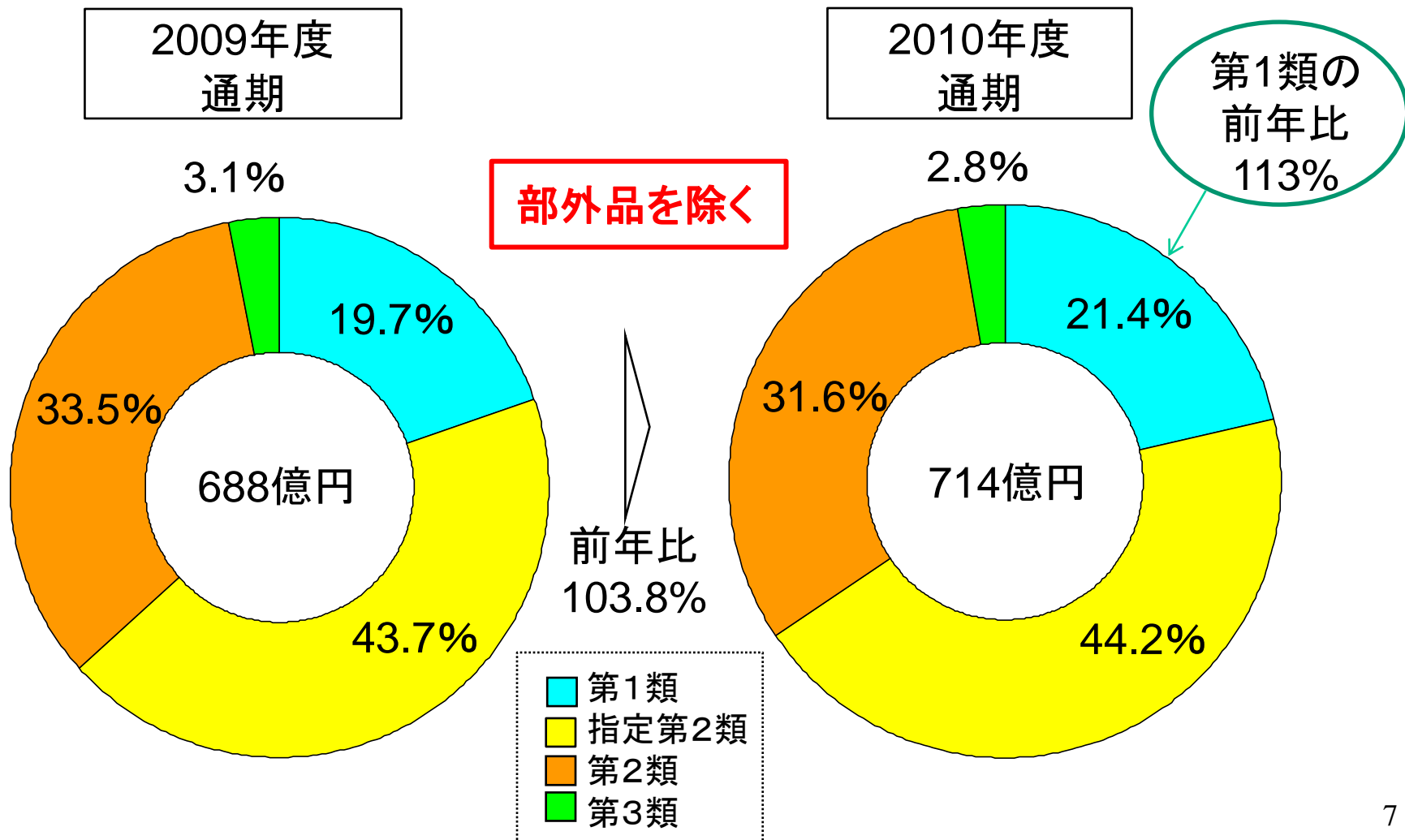
第1類の
前年比
99%



当社のOTC医薬品分類別売上構成比



引き続き、リアップX5の寄与により第1類医薬品が拡大



2010年度通期の概況(2)



- アジアOTC医薬品事業* 業績
 - 2010年度売上・利益は1月修正予想の線
(売上高47億円、営業利益24億円)
- 好調に推移した要因
 - 事業継承後、販促活動を積極的に展開
 - Tempra(小児用解熱鎮痛剤)、
Counterpain(外用消炎鎮痛剤)ともに堅調

* 大正製薬インドネシア(旧BMSI)と
アジアOTC事業統括会社(シンガポール)
の合算

2010年度通期の概況(3)



• 医薬事業

- 医薬事業の売上高は初の1000億円台に
- 大正富山医薬品売上高：過去最高の898億円
(前期比+34億円、+4%)
- クラリス、パルクス：数量ベースで増加し、計画達成
- ゾシン、オゼックス細粒小児用も引き続き好調
- 大正富山医薬品の抗菌薬市場*シェアは17%
(* J01抗菌薬市場)

<ご参考：市場の状況>

- 医療用医薬品市場：前期比+1.6%
 - 当社の主力市場である抗菌薬市場は▲2.5%
(経口▲0.6%、注射▲5.0%)

大正富山医薬品：2010年度主要製品売上高



(億円)

	2010年度 通期	前期比 増減	予想比* 増減
クラリス	229	▲4	+7
ゾシン	148	+41	+3
パルクス	102	▲6	+2
ジェニナック	45	▲3	+4
オゼックス	41	+13	+1
ロルカム	36	▲1	+1

注：金額は億円未満四捨五入

*2011年1月31日時点予想との対比

2010年度：売上高・利益の増減要因



(前期比増減額)

<p>売上高 (+102億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+83億円) (主な増減要因) 国内OTC薬等 +26億円 アジアOTC +39億円 リビタシリーズ +5億円 海外ドリンク剤 +6億円</p>	<p>医薬事業 (+18億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +34億円 中間製品等 ▲15億円</p>						
<p>営業利益 (+94億円)</p>	<p>売上総利益*: +55億円 (売上総利益率* 前年同期64.5%→当期64.1%) 販管費: ▲39億円</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">内訳 研究開発費 ▲44億円</td> <td style="width: 50%;">販促費 ▲1億円</td> </tr> <tr> <td> 広告宣伝費 ▲13億円</td> <td>減価償却費 +5億円</td> </tr> <tr> <td> のれん償却 +4億円</td> <td>システム関連 +7億円</td> </tr> </table>		内訳 研究開発費 ▲44億円	販促費 ▲1億円	広告宣伝費 ▲13億円	減価償却費 +5億円	のれん償却 +4億円	システム関連 +7億円
内訳 研究開発費 ▲44億円	販促費 ▲1億円							
広告宣伝費 ▲13億円	減価償却費 +5億円							
のれん償却 +4億円	システム関連 +7億円							
<p>営業外損益: 持分法投資損益は76億円改善(前年同期▲39億円→当期+37億円)</p>								

*返品調整引当金繰入・戻入調整後 注:金額は億円未満四捨五入

2011年度：通期業績予想



(億円)

	2Q累計 予想	通期 予想	前期比増減	
売上高	1,365	2,740	+54	+2%
セルフメディケーション事業	870	1,713	+41	+2%
医薬事業	495	1,027	+13	+1%
営業利益	210	395	▲46	▲10%
経常利益	235	455	▲86	▲16%
当期純利益	140	280	▲69	▲20%
EPS(円)	50.76	101.52	▲23.38	▲19%
(参考)				
大正富山医薬品売上高	438	910	+12	+1%

注：金額は億円未満四捨五入

通期見通し：事業別概況



- セルフメディケーション事業

- 国内：リポビタンシリーズをはじめ、
主カブランドの伸長で増収を見込む
- エパデール等、新規領域の新製品は
現時点では織り込んでいない

- 医薬事業

- 新製品の寄与：エディロール新発売（2011年4月）、
ゾシンも続伸の見込み
- 抗菌薬市場でのシェア拡大、
炎症・免疫領域の強化



アジア子会社の業績見通し

(億円)

	2010年度 通期	2011年度 通期予想	前期比 増減
アジアOTC	47	65	+18
BMS社からの買収分	47	51	+4
Hoe社買収分	-	14	+14

- BMS社からの買収分
(大正製薬インドネシア、シンガポール大正)
 - Tempra、Counterpainは順調に拡大の見通し
- Hoe社買収分
 - 2011年度通期売上高予想:14億円
 - (Hoe社は1月期決算のため、
2011年8月～2012年1月分の損益を取り込む予定)

2011年度通期予想：売上高・利益の増減要因



(前期比増減額)

<p>売上高 (+54億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+41億円) (主な増減要因) 国内OTC薬等 +13億円 アジアOTC +18億円 特保・食品等 +10億円</p>	<p>医薬事業 (+13億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +12億円</p>
<p>営業利益 (▲46億円)</p>	<p>売上総利益* : +37億円 (売上総利益率* 前年同期64.1%→当期64.2%) 販管費: 82億円の増加 内訳 研究開発費 +25億円 販促費 +27億円 広告宣伝費 +15億円 人件費 +6億円 のれん償却 +3億円 システム関連 +5億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資利益は前期比▲36億円 (2010年度+37億円→2011年度+1億円)</p>		

*返品調整引当金繰入・戻入調整後 注: 金額は億円未満四捨五入

2011年度：主要ブランド・製品売上高予想



(億円)

	2010年度 通期	前期比 増減	2011年度 通期予想	前期比 増減
リポビタンシリーズ	711	+3	716	+5
パブロンシリーズ	257	+8	257	0
リアップシリーズ	149	+22	152	+3
ナロンシリーズ	46	+2	43	▲3
胃腸薬シリーズ	43	0	43	0
コーラックシリーズ	39	0	40	+1
リビタシリーズ	36	+5	37	+1
クラリス	229	▲4	220	▲9
ゾシン	148	+41	162	+14
パルクス	102	▲6	100	▲2
ジェニナック	45	▲3	50	+5
オゼックス	41	+13	41	0
ロルカム	36	▲1	33	▲3

注：金額は億円未満四捨五入

セルフメディケーション事業：新製品



<2011年度：新製品の見通し>

<上期>

リポビタンD8

リポビタンゴールドN

アルフェシリーズ

など

<下期>

リアップシリーズ

胃腸薬シリーズ

リビタシリーズ

(生活習慣病対応)

など

赤文字：発売済みの製品

医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



国内

(2011年5月13日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2/3			
CT-064* (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
フェーズ2			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
TS-071 (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

* CT-064: 中外製薬における開発コードはRG484

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2011年5月13日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2(続き)			
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬／ 田辺三菱製薬

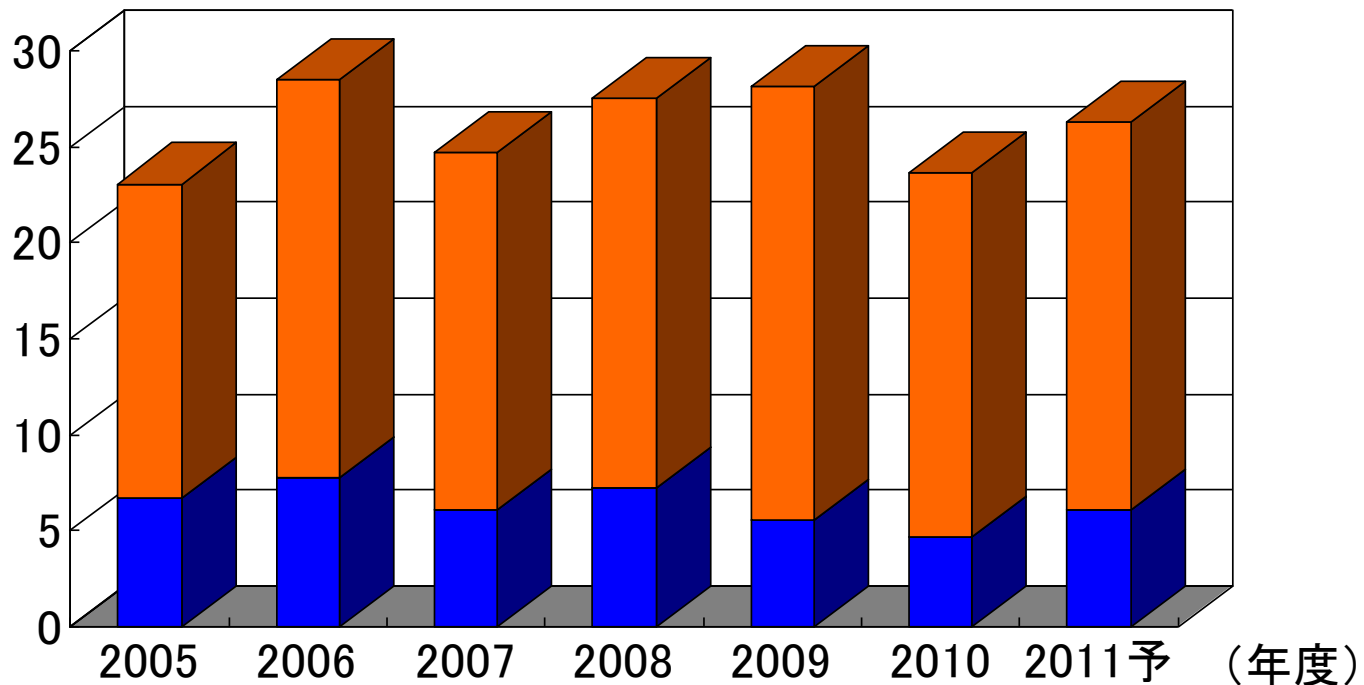
研究開発費の動向



2010年度実績:237億円(前期比▲44億円)

2011年度計画:262億円(同+25億円)、開発の進捗に伴い増加

(十億円) ■ セルフメディケーション ■ 医薬



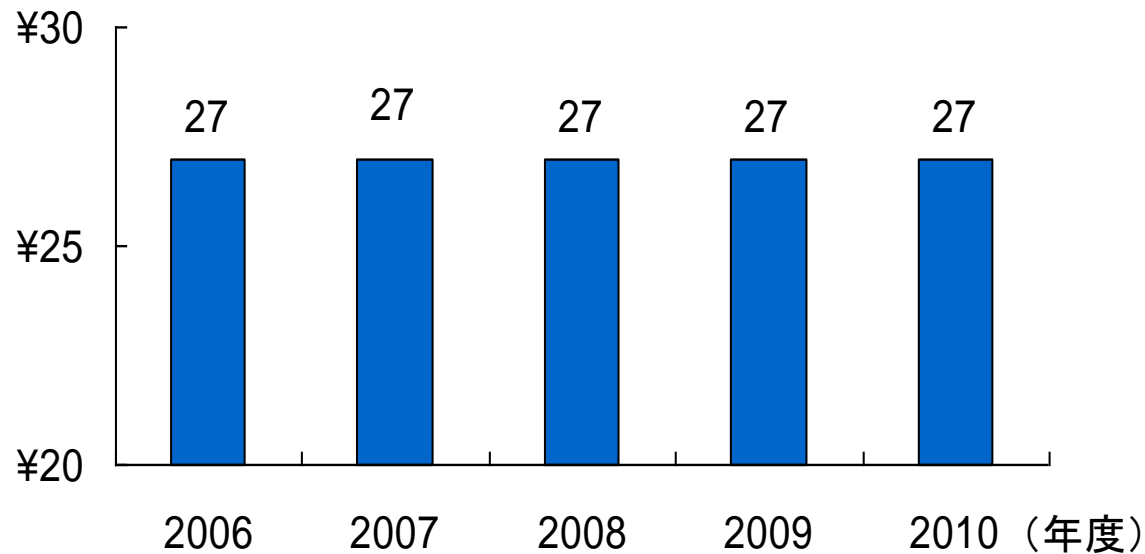
株主還元



- 配当

- 2010年度は年27円／株を据え置き(期末15円)

- 新会社の配当については、発足後に決定



1株あたり配当金の推移

単独株式移転による持株会社の設立



- 目的

持続的な成長を実現させるために

- ① グループ経営資源の効果的な配分
- ② 競争力強化を可能とする体制の整備

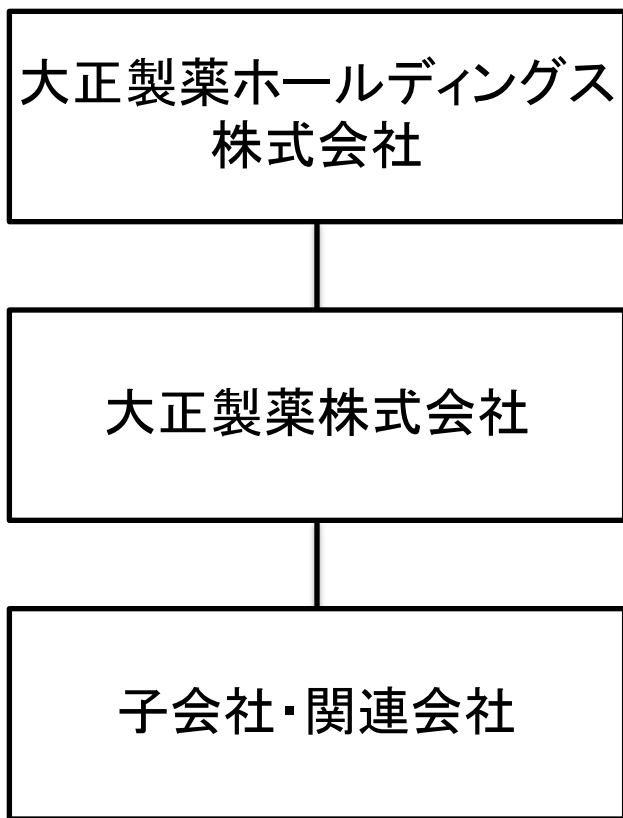
- 概要

1. 株式移転による持株会社設立(ステップ1):
2011年10月3日、株式移転により持株会社を設立
株式移転比率
大正製薬株1に対し、大正製薬ホールディングス株0.3
2. 持株会社設立後の体制(ステップ2):
グループ企業の戦略的再編を速やかに実施
(具体的な内容は決まり次第発表)

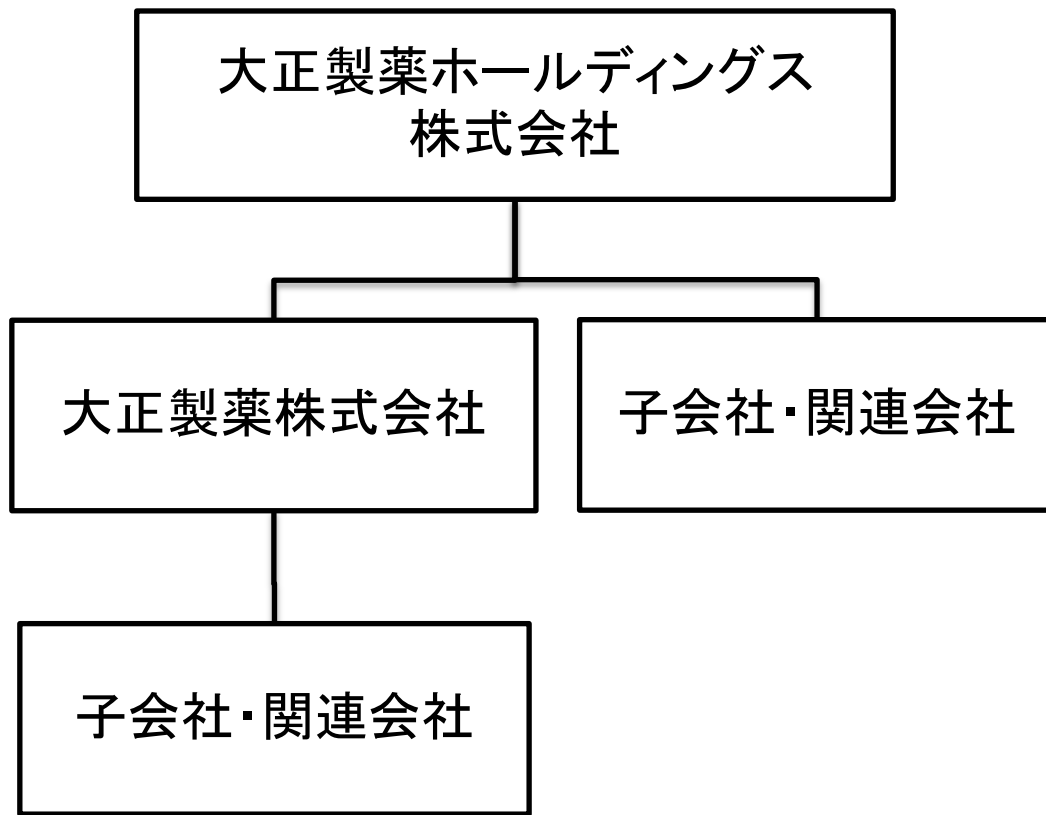
単独株式移転による持株会社の設立



【ステップ1】



【ステップ2】



当社の進む道～100周年を超えて



- 100周年(2012年度)を超えて
...ゴールではなく、あくまで一つの通過点
 - その先を見据えた取り組みを
- 2つの事業の発展と地域的な拡大
 - セルフメディケーション: 真の定着のために
 - 医薬事業: さらなる成長に向けて
 - 海外展開: 海外売上高比率10%を目指して